

Goldschmidt 2023 Conference 参加報告書

関連基礎科学系 博士課程 3 年 福島菜奈絵 (角野研究室)

過日に開催されました国際学会への参加報告をいたします。

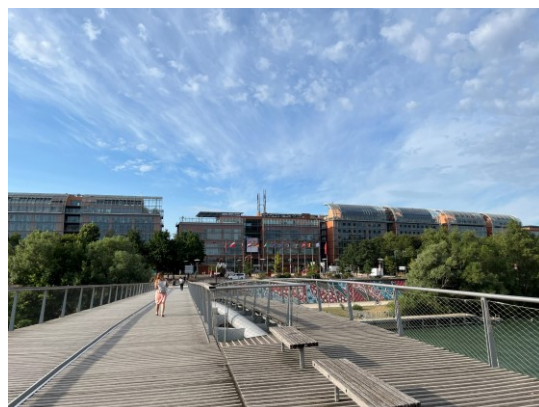
- ◆ 学会名：Goldschmidt 2023 Conference
- ◆ 開催期間：7 月 9 日~7 月 14 日
- ◆ 開催場所：Lyon Congress Center (フランス, リヨン)
- ◆ 発表セッション：1dO2- Origin and evolution of volatile elements in the solar system and on the terrestrial planets (session in honor of Pr. Bernard Marty)

Goldschmidt 会議は、Geochemical Society と European Association of Geochemistry が主催する、地球化学に関連する研究者たちが集う最大規模の年次国際会議である。私は 7 月 13 日に「Noble gas analysis of fluid/melt inclusions in ultramafic rocks from West Greenland for constraining Archean mantle evolution」という題目で口頭発表を行った。私の研究の大きな目標は、地球内部のマントルからもたらされた岩石試料を対象に、その中に含まれる希ガス・ハロゲン組成を調べることで、地球の内部の揮発性成分の進化過程を紐解くことである。これは水惑星と呼ばれる地球の大気・海洋の進化にも関連するテーマである。

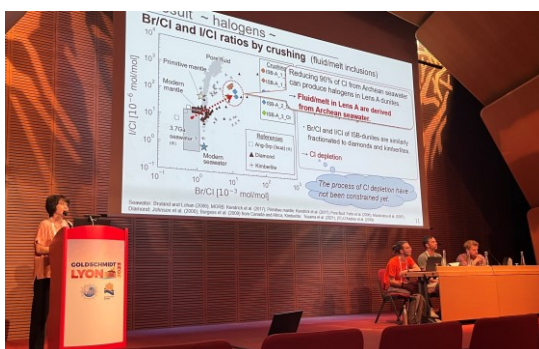
人生初の現地での国際会議での口頭発表ということもあり、緊張の中迎えた当日であったが、自分なりにベストを尽くすことができた。ただし質疑応答では質問を聞き返す場面もあり、精進が必要だと感じた。今回 3 つの収穫があった。(1) 自身の研究とその分析技術に興味をもってもらえたこと、(2) 専門が近い研究者の仕事について、臨場感のある話が聞けたこと、(3) これから研究職を目指すにあたり腕試しができたことである。

(1) について、ハンガリーの研究者から、今回発表した分析手法を使い（いつか？）来日したいとの声をかけてもらった。汎用性の高い技術を持っていれば多様な分野の関係者と共同研究ができるという確かな手ごたえを感じた。今は未熟ではあるものの、これから研究者としての強みとして、着実に技術を積み上げることに注力したいと考えるきっかけとなった。(2) では、自身が対象とする専門分野の最先端に行く研究者達が、論文を書き上げるまでにどのようなプロセスを踏んでいるのかを垣間見ることで、多くのインスピレーションを得た。

最後にこの度の学会参加にあたり、渡航支援をしてくださった広域科学専攻の皆様から心から感謝の意を表します。



会場（奥）とロース川に架かる橋。高さ 5m ほどあるが地元の少年たちが度胸試しで川にダイブしていた。



発表の様子。小さな演奏会ができそうな会場だった。